

2026年度 おかさきこども園 事業計画

2026年度は、開園から45年、新園舎に移転してから13年目、保育園から幼保連携型こども園に移行して9年目になります。

湖西市は、2028年度を目指していましたが新設園を見送る方針が示されました。想定を上回るスピードで少子化が進み、既存施設でまかなえる見通しとなりました。ですが、入所待ち児童の解消にむけた課題は多く、定員の弾力運営にも影響を及ぼすことも考えられています。

また、出生数の減少が大きな社会問題とされていますが、2026年4月の低年齢児の入園希望が激減しています。地域に根ざした選ばれる園であること「この園なら安心」という保護者の信頼の獲得も考えていかなければならないと思います。まず理念等全体計画を法人で統一しました。そして、おかさきこども園の特色、学童まで子どもの成長をみることができる、保護者の就労ニーズにあわせた、一時預かりや休日保育事業等を活かして、湖西市の乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）は周囲の園の状況を見ながら検討していきます。

事業の意義目的を再認識し、園の取り組みを職員と協力して実施していくもの、かたちを変えていくものを整理していこうと思います。

更に災害や感染症など予期せぬ事態発生時でも、こどもたちの安全を守り、地域にむけての防災の取り組む方法等マニュアルの見直しを計画にしていこうと考えます。

また人材不足は深刻であり、紹介会社より6名の正規職員の採用をしました。人材確保をして、職員が働きやすい環境を整備するための具体的な目標と取り組みを明確にし、風通しのよい職場づくりとして、現場の声を大切に受け止めていきたいと思います。職員が生き生きと働く園は、保護者にとっても、こどもを安心して預けられる場所として大きな魅力となるはずです。一人ひとりの職員の役割を大切に、組織づくりをして、意見が届き、支え合いが機能する職場でありたいと考えます。職員の長期的な定着と信頼の確立が必要だからこそ、努力していくべき、事業計画に取り組む年度にしたいと思います。

【保育の理念】

未来を拓く力を育む

【保育方針】

- ・保育者の温かな眼差しのもと人と人のつながりを深め、その子らしく生きる
- ・子どもの発達過程を大切に一人ひとりの良さを育む

【保育目標】

- ・いろいろな経験を通し、自分で考えて行動する子ども
- ・一人ひとりの違いに気づき、互いを認め合いながら共に生活をする

1. 環境整備と保育の振り返りから、園が目指す園児の姿にこだわる。

- 1) あそびの中に表れる思考の芽生えを丁寧に見取り考え、環境を構成していく。
- 2) 保育の振り返りをしながら、事例を通じて子どもを中心にのいた関わりを語り合う。
コドモンを利用し、ドキメンテーションについて語り合う、子どもの成長をみんなで共有する時間を設ける。コドモンを活用し、記録を整理していく。
- 3) 配慮の必要な子ども、特別なニーズを持つ子どもに寄り添う子どもの支援を行う。
専門医師による訪問相談を行う。療育相談、ケース会議、個人記録と個別計画を立てる。
- 4) 子どもの発達を考え、五感や指先をつかった玩具選びや様々な動きや体幹姿勢のあそびを考える。
- 5) 子どもの気持ちに寄り添い、温かい人との関りを通し、興味を引き出す保育実践、絵本に触れ育つ環境で想像力心の育ちを大切にする。
- 6) 幼少保の架け橋プログラムを実行し、学校へとつなげていけるようにする。

7) 保育を他者から評価を受けたり、他園への見学、市野との交流を行い保育を高めあっていく。また聖隷保育学会への参加、研究の実践発表につなげていく。

2. 職員一人ひとりの強みを理解しスキルアップを後押しする。

- 1) 職員の「思い」を「環境」につなげることを意識し、意見を出し合う。（発達によるあそびの環境、食事環境、午睡環境等）環境作りのプロセスで保育力を高める。
- 2) 保育教諭ラダーで振り返り、自己評価から自分の保育観を見つけ、仕事のやりがい自信につなげる。
- 3) 園内研修の活性化、グループワークなどを通して職員同士の共有を図る。
- 4) 外部研修、キャリアアップ研修、法人研修の意義目的を理解して参加し、自分の役割を学び、質の向上につなげる。職員自身が保育が楽しいと言える環境作りをする。
- 5) 休憩場所の確保、ノンコンタクト等の意味を共有し、誰もがとりやすい環境作りを考える。

3. 園の安全管理について防災や緊急時の対応力を高める。

- 1) 事故防止策を徹底し、日常保育の中で緊急時対応の（救急、防犯等）実践を交えて行う。
- 2) 修繕修理の中期計画を考えていく。
- 3) 親子ふれ合い会、保護者個人面談、保育参加会等、子育て家庭への相談等をして、保護者支援に努め、保護者に園の良さを感じてもらい、アピールして発信につなげる。

4. 地域・行政との協力関係の維持をはかる。

- 1) 子育て支援びよびよクラブの実施や保護者を含む育児相談を行う。
- 2) 地域交流（地域の鼓隊演奏のお祭り参加、自治会、老人ホームとの交流等）と子育て家庭の居場所作り（園庭開放、離乳食教室、おひさま広場・こども食堂は継続必要か検討、多胎児のおしゃべり会等）を行い、地域にむけてたくさん見学に来てもらえるように園の発信をしていく。
- 3) 行政と連携を円滑に行う。（休日保育事業、乳児等通園支援事業、療育問題等）

【定員及び令和8年4月園児数】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員 2/3号認定 ＜1号認定＞	12	14	18	25 ＜2＞	25 ＜2＞	26 ＜2＞	120 ＜6＞
新入園児 2/3号認定 ＜1号認定＞	4	7	1	＜1＞	1	1	14 ＜1＞
在園児 2/3号認定 ＜1号認定＞	0	11	23	25	26 ＜2＞	23 ＜1＞	108 ＜3＞
園児計 2/3号認定 4月 ＜1号認定＞	4	18	24	25 ＜1＞	27 ＜2＞	24 ＜1＞	122 ＜4＞

【職員数・令和8年4月】

	園長 副園長	主幹	保育教諭	保育士	保育 補助	栄養士	調理師 調理補助	事務	用務	学童	合計
正規 (育休・時短)	1 1	2	18 (1・2)			1	2	1		1	27 (1・2)
非常勤 エルダー			1 1							1	2 1
パート			9	1	2		1		1	4	18
合計	2	2	29 (3)	1	2	1	3	1	1	6	48 (1)

